

確立、高福祉農村の建設を施策目標として打ち出しています。

従って、これらの指針に従い、既耕地においては、機械化作業体系による生産性向上のためのホ場整備、基幹用排水施設の整備改修並びに自動化、システム化、生産から流通までの農道整備等を実施し、また好立地条件の山林原野については、国土資源の保護開発高度利用といった観点から、果樹、野菜等の主産地形成、畜産振興のための自給飼料基盤の拡大整備を図ります。

さらに、農村内の上下水、道路等の整備を行なって、農村社会の近代化、高福祉農村の建設を図る必要があります。

このように今後の基盤の整備開発は従来の土と水のみを対象としたものから、更に農業生産のない手である農村の生活の分野にまで及んでいるので、施策の特質といえましょう。

以下、各地域の実情に即応した高効率の広域農業生産団地育成の拠点とすべく県内各地で目下実施中、計画中の大規模基盤整備事業のいくつかを紹介しましょう。

〔八代平野土地改良事業〕  
これらの大規模事業の特徴は、上位は農林省直轄による国営事業から以下県営事業、団体事業、非補助事業により順次最末端までの基盤整備を実施するものです。

〔阿蘇地域大規模草地改良事業〕  
本地域は、阿蘇郡阿蘇町、一の宮町、産山村に及び阿蘇の北外輪山上に分布する広大な原野で、古くから耕種農業の従属的な用地として和牛、馬などの放牧、採草地として、粗放的な利用が入会権慣行により行なわれて来ました。

しかし、最近の畜産物の需要の増加に伴い畜産振興の基盤として、広大な原野の開発も時代の要請であると同時に、転かんに来た地域農業の打撃策として計画されたものです。

事業内容としては、草地造成、道路新設、雑用水等の基本施設の外、牧冊、障害物、家畜保護施設及び家畜導入の関連事業の実施により、未開発原野の効率的活用、畜産物需要の動向にこたへると共に、未開発原野の効率的活用、高原地帯における草地畜産を推進し土地利用の高度化を図るものです。

事業は農林省直轄事業として、草地造成面積約二千ヘクタールを対象に、総事業費約三十六億円（付帯事業を含む）をもって昭和四十一年度着工、昭和四十八年度完了の予定です。

〔羊角湾地域総合開発事業〕  
本事業の受益地域は、天草の南西、東支那海に面した牛深市及び河浦町にわたっています。

昔から天草は離島ということで、地形的、社会的、経済的諸条件に制約され、

本地域は、球磨川下流の両岸、八代市他三ヶ町村に及ぶ県の代表的な水田農業地帯です。

これらの水田の用水源は、地域の南部を流れる球磨川で、老朽化した遙拝堰と前川堰から取水し、迂余曲折した延々たる土水路によりかんがいし、末端水田は上流の排水を再利用するといった状態です。

したがって、常時の用水不足と、降雨時の長期湛水を解除する為、旧遙拝堰地点に取水堰を統合改築し、用排水兼用の土水路を用水と排水に完全分離かつ舗装を図り、また同時にホ場整備の実施と相まって、用水の合理的、高率の利用かつ高度な用水管理の確立と生産性の向上を図ることによって近代化農業の樹立を目指すものです。

事業は、農林省直轄の国営事業を始めとして、受益面積約七千ヘクタール、総事業費約百十八億円（付帯事業を含む）をもって、昭和三十一年度着工五十五年頃完了の予定です。

〔川辺川地区土地改良事業〕

本事業の受益地は、球磨川上流の人吉市他六ヶ町村にわたっています。地域は広大な丘陵畑作台地でありながら地理的、経済的条件と水利の便に恵まれず、生産性の低い零細畑農業に終始して来ました。

従って、目下建設省の手で計画中の

島民の大部分の人達は、近代化農業に程遠い細々とした零細農業にたよって来ました。したがって、高温多雨という恵まれた自然条件を利用して、天草地域の主要農産物と目されるみかんの主産地形成をはかるため、既耕地約二〇〇ヘクタールとそれに約千三百ヘクタールの開こん地をふくめ約千百ヘクタールのみかん濃密生産団地の形成を行なおうとするものです。

造成されたみかん園の肥培かんがい用水確保のため山麓下の海面羊角湾を締め切って淡水湖化して利用し、また締め切り海面の浅瀬を利用して約百九十ヘクタールの耕地造成を実現しようとするものです。

事業は、農林省直轄事業として、総事業費約九十四億円（付帯事業を含む）で昭和四十三年度着工、昭和五十一年度完了の予定です。

〔矢部地区農地開発事業〕

本事業の受益地域は、緑川上流の上益城郡矢部町及び清和村に位置しています。地域は広大な未利用土地資源に恵まれますが、地理的、社会的、経済的諸条件に制約され、とりわけ最近のきびしい農政事情に直面し、農業の近代化はおろか、深刻な農山村の過疎問題にまで発展しつつあります。

したがって、阿蘇山外輪の南西に広がる極めて広大な緩傾斜の未利用山林

球磨川支流川辺川の川辺川多目的ダム（農業、治水、発電）に農業用水を確保して、水田の用水補給、畑地のかんがいとホ場整備を実施し、又山林原野より農地を造成して、生産性の高い近代化農業と経営規模の拡大を図るものです。

〔菊池台地区土地改良事業〕

本事業の受益地は菊池市、山鹿市、菊池郡、鹿本郡と二市十一ヶ町村にわたっています。

地域は、合志台地、花房台地、植木台地といった熊本市に隣接した好農業

土地資源の開発

平田部の既耕地においては、生産基盤の整備や農村環境の整備による近代化された高効率農業、高福祉農村の建設を推進すると共に、広大な低位、未利用の山林原野を有しながらも、地理的、社会的、経済的な諸条件に恵まれない山間部農村地域においては、これらの山林原野の開

立地条件の極めて広大な丘陵畑作地域です。しかしながらこうした好立地条件にもかかわらず、一部の地下水利用地帯を除いては、強い火山灰性土壌と水利の便に恵まれず、全く収益性の低い粗放畑作農業に終始して来ました。従いまして、目下建設省の手で計画中の菊池川支流迫間川の竜門多目的ダム（農業、上下水、治水）に農業用水を確保して、水田の用水補給、畑地のかんがいとホ場整備を実施して、生産性の高い近代化畑作農業を樹立しようとするものです。

事業は、農林省直轄の国営事業として目下調査中であり、受益面積水田約千四百ヘクタール、畑地約五百ヘクタールの合計約六千四百ヘクタールを対象に、総事業費約二百五十六億円（付帯事業を含む）をもって、昭和五十年着工、昭和六十年頃完了の予定となっています。

等を主目的とした農業生産の選択的拡大及び農業構造の外延的拡大改善を計り、また同時に国土資源の保全開発、高度利用、農村社会の近代化、豊かな地域社会の建設を図ります。

以下、目下実施中の大規模農地開発事業を紹介しましょう。

原野より農地を造成し、同時に肥培かんがい用のためのダム新設、大型機械化作業体系のための基盤整備、生産から流通までを考慮に入れた幹線道路の整備を行なって、地域農業の外延的拡大、近代化を図り、農業を中心とした豊かな山村社会の建設を目指すものです。

水資源の確保

1 農業用水の現状

熊本県の農業は、昔から広大肥沃な土地資源に、豊富な河川水、温暖多雨と云った自然条件に恵まれ、水田中心の農業として著しい発展を遂げてまいりました。

だから農業用水と云えば、その大部分が水田用水として利用されていますが、これを水源別に大別すると、河川水約八〇％で、残りが地下水、湧水、溜池がかりとなっています。

しかし乍ら、農業、農村をめぐる農業用水の需要増加を始め、生活様式が多様化に伴う上水や、工業化の進展による工業用水の需要増加などからして、農業用水の利用も非常にむずかしくなってきました。

確かに従来まで農業用水の主水源となり、豊富な流量から安易に取水利用して来た河川水も、流量の低減、枯渇と取水の増加により、今後の自由は新規取水は殆んど不可能の状態になって

会の建設を目指すものです。事業は、農林省直轄事業として、受益面積約七百ヘクタール、総事業費約四十五億円（付帯事業を含む）で、昭和四十八年度着工、昭和五十四年度完了の予定です。

2 農業用水の将来

農業用水の今後の需要動向としては従来までの水田用水から、畑地の肥培かんがいが、家畜用水、営農雑用水へと、さらに農村環境の整備等により、ますます農村をめぐる農業用水の新規需要は増加の一途を辿るでしょう。

このようなことから、将来の農業用水需要は、現在の年間総所要水量約三十五億トンから昭和五十年代には約四十億トンの需要にも達するものと推定されます。